

教授職の昇任人事に関する履歴書・業績一覧

2019年4月1日 西山雄二（人文科学研究科・フランス文学）

1. 履歴

学歴

2000年4月 - 2006年9月 一橋大学 言語社会研究科 博士課程
2001年9月 - 2002年9月 パリ第10大学（ナンテール）「哲学と哲学史」学科 DEA 課程
1998年4月 - 2000年3月 一橋大学 言語社会研究科 修士課程
1995年4月 - 1997年3月 神戸市外国語大学 外国語学研究科 国際関係学専攻修士課程
1990年4月 - 1995年3月 神戸市外国語大学 外国語学部 国際関係学科

学位

2006年7月 博士号（学術）一橋大学 言語社会研究科
2002年10月 DEA 学位（哲学）パリ第10大学
2000年3月 修士号（学術）一橋大学 言語社会研究科
1997年3月 修士号（学術）神戸市外国語大学 国際関係学科

職歴

2010年4月 - 現在 首都大学東京 人文科学研究科 准教授
2017年9月 - 2018年8月 フランス国立東洋言語文化大学 日本学センター 客員教授
2010年10月 - 2016年7月 国際哲学コレッジ（Le Collège international de Philosophie）プログラム・ディレクター
2014年4月 - 2014年4月 リヨン高等師範学校 東洋研究所 客員教授
2007年10月 - 2010年3月 東京大学 大学院総合文化研究科 グローバル COE「共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP） 特任講師
2006年4月 - 2007年3月 東京大学 21世紀 COE プログラム「共生のための国際哲学交流センター」（UTCP） 研究拠点形成特任研究員

非常勤歴

朝日カルチャーセンター新宿校（2008-2012年）、東京外国語大学（2007-2009年）、名古屋市立大学（2011年）、慶應義塾大学（2013年）、大阪大学（2015年）、東京大学（2018年-）

委員など

2017年4月 - 現在 日本フランス語フランス文学会 学会誌編集委員
2012年4月 - 2017年3月 広島大学高等教育研究開発センター 客員研究員
2011年10月 - 2014年9月 日本学術会議 若手アカデミー特任連携会員
2013年4月 - 2014年3月 日本フランス語フランス文学会関東支部 代表幹事

II. 研究教育活動の概要

1. 研究

1) ジャック・デリダ研究

フランスの哲学者ジャック・デリダの脱構築思想をめぐって、国内外で研究活動をおこなってきた。①とりわけ、デリダにおける教育や大学の理論と実践に関する研究について独創的な成果をあげた。その成果はつねに国際会議で発表され、とくにデリダ没後10年目は日本、フランス、中国での会議に参加した。②また、翻訳についても、『哲学への権利』(全二巻)、『獣と主権者』(全二巻)といった大部の著作の監訳を務めた。③そして、2013年に脱構築研究会を発足させ、デリダ研究の国内外のネットワーク形成に貢献してきた。

2) 共同研究「哲学と大学」

2007年から同輩の若手研究者たちと共同研究「哲学と大学」を実施した。この共同研究の目的は、各哲学者の大学論を批判的に考察することで、教育法や教育論、学問論、教養論、人間論、人文学論といった主題も踏まえつつ、哲学と大学の制度や理念との関係を問い直すことである。①2010年に科研費(基盤研究B)を得て共同研究は拡充され、その成果が論集『人文学と制度』(未来社)として刊行された。②また、国際哲学コレージュのディレクターに選出され、2010~2016年に毎年パリで同主題にてセミナーを開催したことも特筆すべき成果である。

3) 映画「哲学への権利」の上映・討論会の活動

1983年、ジャック・デリダらは、脱構築の論理にもとづいて研究教育機関「国際哲学コレージュ」をパリに創設した。申請者はその関係者へのインタビューをもとにドキュメンタリー映画「哲学への権利」を製作した。本作品では、収益性や効率性が追求される現在のグローバル資本主義下において、哲学や文学、芸術などの人文学的なものの可能性をいかなる現場として構想し実践すればよいのかが問われる。2009年9月以降、映画は日本のみならず、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリス、ブルガリア、セルビア、イスラエル、韓国、香港、台湾と世界11ヶ国でのべ68回上映され、その都度、大学と人文学の在り方を問う討論会が併催された(そのうち英語での討論が22回、フランス語4回)。その成果はDVD付の著作『哲学への権利』(勁草書房)として刊行された。

4) 共同研究「カタストロフィと人文学」

2011年の東日本大震災以後、人間の精神的活動を探究する人文学は、カタストロフィを前にしていかなる学問的貢献ができるのか。本研究の目的は、主に人文学の文献や理論にもとづいて、カタストロフィと人間の関係を根本的に問うことである。学長裁量経費・研究環や科研費(基盤C、国際強化)を得て共同研究が展開され、①その成果は、パリ、スウェーデン、ブルガリア、香港などで口頭発表され、国内外の研究者との学術連携が大いに進展した。②また、論集『カタストロフィ

と人文学』(勁草書房)、フランス語雑誌「デカルト通り」の日本特集号、英語での単著『福島以後、遺棄された大地を想像すること、死者の声に耳を傾けること』と、日仏英の言語で成果を公表できたことは予想以上の成果だった。

5) 「人文学報」の特集号の責任編集

首都大学東京フランス文学教室の紀要「人文学報」で特集号を組み、各号 5-10 本ほどの論考・翻訳を責任編集した。大学紀要は予算がつねに確保され、裁量が自由な貴重な媒体である。とりわけ若手・中堅の業績と報酬に貢献する特集を組むことで、魅力的で重厚な冊子作りに成功した。

2013 年=ジゼル・ベルクマン来日講演、フランスと日本の高校における哲学教育の現在

2014 年=ジェローム・レーブル来日公演

2015 年=ジャック・デリダ没後 10 年

2016 年=文学と死、デリダの動物哲学

2017 年=ジャン=リュック・ナンシーの哲学の拍動、文学と愛

2018 年=ジョゼフ・コーエン、ラファエル・ザグリ=オルリ来日講演

2019 年=68 年 5 月

以上、首都大に着任してから、2010~2018 年度の研究業績は、以下の通りである。

- ・単著 2 本、編著 4 本、共著 10 本、論考 16 本
- ・翻訳は、単行本 8 本、論文 14 本
- ・口頭発表・講演は 45 本で、そのうち、フランス語 17 本、英語 9 本
- ・映画「哲学への権利」上映・討論会は 43 本、そのうち英語の討論は 18 本、フランス語 1 本。

2. 教育

1) 授業担当、論文指導

これまでフランス語初級、フランス語圏文化の入門講義、思想系の演習などを担当してきた。授業にはゲスト講師を招いたり、フランス人学生に参加してもらったり、海外の招聘研究者のフランス語ないし英語のセミナーを組み込んだりして、躍動的な授業運営を心がけてきた。論文指導の実績は、卒業論文 10 本、修士論文 6 本である。

2) オムニバス講義「人間・文化・社会」

2012 年度に人文・社会学部(当時)のオムニバス講義を企画立案し、毎年コーディネートを務めてきた。各教室の連携を促進し、新入生の進路選択に役立つ貴重な定番授業となっている。

3) 学生とのフランス研修旅行

2008 年以来、計 9 回、自発的に企画を立ち上げて、希望する学生らとともに毎年 3 月にフランスに 10 日間ほど滞在してきた。これまで引率したのはのべ 50 人である。レンヌ第二大学の日本語クラスでの発表、高校での哲学授業の見学、申請者の国際セミナーの見学、ブルターニュ地方とパ

リの観光などが主なプログラムである。フランス語発表の事前準備も含めて、濃密なフランス滞在は参加学生の学習意欲を著しく向上させた。

4) 若手研究者育成

若手研究者育成の一環として、翻訳の仕事を依頼し、その添削に携わってきた。首都大のみならず、他大学の院生に対しても、のべ50本の翻訳の機会が与えられた。首都大仏文には大学院生がほぼいないので、その分、他大学も含めて、若手の研究支援や彼らとの共同に携わりたいという気持ちによるものである。訳文を紀要に掲載し、その対価として謝金を用意することで、若手が業績と報酬が得られる機会をつくってきた。

5) 国際交流協定

中長期的な国際的な研究教育活動を確立するために、国際交流協定の準備と維持に尽力してきた。2013年にレンヌ第二大学との交換留学協定、2017年にブルガリアのソフィア大学と研究協定が結ばれ、フランス東洋言語文化大学との協定も進んでいる。

6) 日本への留学支援

日本に留学したい学生（主にフランス人学生）のために、奨学金制度（都市外交奨学金、交換留学制度など）を用いた、あるいは私費による長期・短期滞在をサポートしてきた。コーディネーター役として、これまで長期で18人、短期で6人の外国人学生の充実した日本滞在のために責任を負った。

3. 反省点と課題

・ジャック・デリダに関する研究書を四冊目の単著として刊行する予定だが、まったく目処が立っていない。教授昇任前の必要条件としてきたが、大きく反省すべき点である。欧米圏の多くの高等教育制度では、博士論文以後、二冊目の研究書の刊行が教授職昇進の基準となっている。申請者の場合、「二冊目の研究書」と呼べる単著の刊行に至ってはならず、その点では十分な基準に達していないと考えている。ただ、DVD付きの二冊目単著が社会貢献の高い刊行物であること、三冊目の単著が論文集とはいえ英語刊行物であること、また、フランス語での雑誌特集の責任編集を務めたことといった成果も踏まえて、今回昇任審査に応募する次第である。

・フランス語教育に関しては、初級クラスを長年担当し、シャンソンの授業にも2018年度から取り組み始めた。ただ、中級・上級の授業経験がないので、その教授能力を伸ばすことができていない。

・国際的な研究活動を展開しているが、中期的な視座から研究チームを形成するまでには至っていない。今後は、レンヌ第二大学や東洋言語文化大学との持続的な研究連携の構築に取り組みたい。

III. 主要業績（2010～2018年度の一部抜粋）

単著 2本

Yuji NISHIYAMA, *Imagining an Abandoned Land, Listening to the Departed after Fukushima*, Lambert, 2016.

西山雄二『哲学への権利』勁草書房、2011年。

編著 4本

Yuji NISHIYAMA, *Rue Descartes*, N 88, 2016/1, *Philosopher au Japon aujourd'hui, après Fukushima*, Le Collège international de Philosophie, 2016.

西山雄二ほか編『終わりなきデリダ ハイデガー、サルトル、レヴィナスとの対話』法政大学出版局、2016年。

西山雄二『カタストロフィと人文学』勁草書房、2014年。

西山雄二『人文学と制度』未来社、2013年。

共著 10本

『大学事典』平凡社、2018年。

The Sublime and the Uncanny, UTCP (The University of Tokyo Center for Philosophy), 2016.

Université ou Anti-Université. Les humanités dans l'idée de formation supérieure, L'Harmattan, 2016.

『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』講談社選書メチエ、2015年。

『大学と学問の再編成に向けて』行路社、2012年。

Figures du dehors, Cécile Defaut, 2012.

論考 16本（フランス語6本、英語1本）

西山雄二「六八年五月から遠く離れて——五月の出来事を記念すること」、『人文学報』515-15、2019年。

Yuji NISHIYAMA, “What remains of Philosophers’ Reflections on University?”, *Tetsugaku* (1), p. 92-106, 2017.

Yuji NISHIYAMA, « L’adresse de l’entre-nous : l’interprétation plastique de Hegel chez Jean-Luc Nancy », *Les Cahiers philosophiques de Strasbourg* (42), p. 127-137, 2017.

西山雄二「人文学の後退戦——文科省通知のショック効果に抗って」、『現代思想』、182-189頁、2015年11月。

西山雄二「超一主権的な Walten の問いへ——ジャック・デリダ『獣と主権者 II』をめぐる覚書」、『現代思想 2015年2月臨時増刊号』、139-153頁、2015年2月。

西山雄二「世界の終わりの後で——晩年のジャック・デリダの黙示録的語調について」、『思想』(1088)、105-123頁、2014年12月。

Yuji NISHIYAMA, « Ouvrir “l’Association pour la déconstruction” », *Rue Descartes* (82), p. 117-120, 2014.

Yuji NISHIYAMA, « Le voyage du film documentaire *Le Droit à la philosophie* », *Rue Descartes* (81),

p. 116-125, 2014.

Yuji NISHIYAMA, « Quelle voix pédagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? », *Quadranti - rivista internazionale di filosofia contemporanea* 2(2), p. 147-159, 2014.

Yuji NISHIYAMA, « L'ennemi absolu de la littérature : Blanchot contre de Gaulle », *Cahiers Maurice Blanchot* (1), p. 103-115, 2011.

翻訳（単行本）8本

モーリス・ブランショ『終わりなき対話 II 限界-経験』筑摩書房、2017年。

ジャック・デリダ『嘘の歴史 序説』未来社、2017年。

パトリック・ロレッド『ジャック・デリダ 動物性の政治と倫理』勁草書房、2017年。

ジャック・デリダ『獣と主権者 II』白水社、2016年。

ジャック・デリダ『哲学への権利 2』みすず書房、2015年。

ジャック・デリダ『哲学への権利 1』みすず書房、2014年。

ジャック・デリダ『獣と主権者 I』白水社、2014年。

エマニュエル・レヴィナス『倫理と無限 フィリップ・ネモとの対話』ちくま学芸文庫、2010年。

翻訳（論考）14本

ジャック・デリダ×ミカエル・ベン＝ナフタリ「アウシュヴィッツ以後の脱構築」（共訳）、『人文学報』首都大学東京人文科学研究科（514-15）、223-256頁、2018年。

アレクサンドル・コイレ「嘘をめぐる省察」（共訳）、『多様体』（1）、2018年。

フランチェスコ・ヴィターレ「テキストと生物——生物学と脱構築のあいだのジャック・デリダ」（共訳）、『人文学報』首都大学東京人文科学研究科（512-15）、167-190頁、2016年。

ジャック・デリダ「出来事を語ることのある種の不可能な可能性」（共訳）、『終わりなきデリダ』、9-41頁、2016年。

カトリーヌ・マラブー「屹立状態の哲学」、『現代思想』2015年2月臨時増刊号、220-228頁。

パトリック・ロレッド「動物は人間のように愚かであることができるか——デリダとドゥルーズをめぐる「超越論的愚かさ」について」（共訳）、『ドゥルーズ 没後20年新たなる転回』、172-181頁、2015年。

カトリーヌ・マラブー「グラマトロジーと可塑性」、『思想』（1088）、242-261頁、2014年。

アンヌ・ドゥヴァリュエ「リセ最終学年以前への哲学の拡張？」（共訳）、『人文学報』首都大学東京人文科学研究科（481）、95-101頁、2013年。

ジゼル・ベルクマン「我々の思考を妨げるもの」（共訳）、『人文学報』首都大学東京人文科学研究科（481）、33-48頁、2013年。

講演・口頭発表等 45本（フランス語発表17本、英語発表9本）

Yuji NISHIYAMA, "Thought and Representation of Nuclear Energy in Japan: Comparative Analysis of the Films *Godzilla* (1954) and *Shin Godzilla* (2016)", Nuclear (power), a scientific and philosophical question from 1945 to today, Sapienza University of Rome, 2018年9月24日

Yuji NISHIYAMA, « Le propre de l'homme et le droit à la mort : autour de Jacques Derrida, La peine de mort », XXVIIe Université d'été de l'Association Jan Hus, Slovaquie: Banská Štiavnica, 2018 年 7 月 2 日

Yuji NISHIYAMA, "Politiques du mensonge chez Derrida et Levinas », DERRIDA-LEVINAS Une alliance en attente de politique, Sapienza-Università di Roma, 2016 年 10 月 18 日

Yuji NISHIYAMA, "What remains of Philosophers' Reflections on University?", 日本哲学会第 75 回大会, 京都大学, 2016 年 5 月 14 日

Yuji NISHIYAMA, "Devant la porte du pays du Soleil Levant: Jacques Derrida au Japon », French Theory au Japon" (Paris, Maison Heinrich Heine), 2016 年 3 月 19 日

Yuji NISHIYAMA, "L'adresse de l'entre-nous: l'interprétation plastique de Hegel chez Jean-Luc Nancy », Mutations - autour de Jean-Luc Nancy (Université de Strasbourg), 2015 年 11 月 19 日

Yuji NISHIYAMA, « Quelle voix pédagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? », Derrida à venir, Questions ouvertes (L'Ecole Normale Supérieure de Paris), 2014 年 10 月 2 日

Yuji NISHIYAMA, « Imaginer la terre abandonnée après Fukushima », Fukushima : le politique après la catastrophe. Epistémologie, philosophie, politique, Université Lyon 3, 2014 年 4 月 4 日

Yuji NISHIYAMA, L'honnêteté des Humanités face à la catastrophe : À « ce qui n'en finit pas », La philosophie de la catastrophe: repenser les Humanités après Fukushima (Maison de la culture du Japon à Paris), 2013 年 3 月 16 日

映画「哲学への権利」上映・討論会 43 本 (英語での討論は 18 本、フランス語 1 本)

日本、フランス、ドイツ、イギリス、ブルガリア、セルビア、イスラエル、韓国、香港、台湾。

競争的資金等の研究課題 (科研費 4 本、首都大学東京・学長裁量経費 5 本)

「啓蒙期から現代に至るカタストロフィの思想と表象に関する総合的研究」、日本学術振興会: 科学研究費補助金 国際共同研究加速基金、研究期間: 2016 年 4 月 - 2018 年 3 月、代表者: 西山雄二

「啓蒙期から現代に至るカタストロフィの思想と表象に関する総合的研究」、日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(C)、研究期間: 2015 年 4 月 - 2017 年 3 月、代表者: 西山雄二

「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」、日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(C)、研究期間: 2014 年 4 月 - 2016 年 3 月、代表者: 亀井大輔

「カタストロフィと人文学——東日本大震災以後の人間・自然・文明」、首都大学東京: 学長裁量経費、研究期間: 2012 年 4 月 - 2014 年 3 月、代表者: 西山雄二

「啓蒙期以後のドイツ・フランスから現代アメリカに至る、哲学・教育・大学の総合的研究」、日本学術振興会: 科学研究費補助金 基盤研究(B)、研究期間: 2010 年 4 月 - 2012 年 3 月 代表者: 西山雄二